

## 第1回保健指導部会報告 「情報交換会」 保健指導部長 佐藤 ミツ子

さわやかな秋晴れの10月21日土曜日の午後、保健指導部としての初めての交流会を、アジュール仙台の2回『みわ亭』で行いました。

参加者は、30代から80代と幅広く、助産師ならではの年齢層と嬉しく思いました。現役の方もそうでない方も、年代を超えて、パワフルでした。自己紹介しながら、熱心に体験談を話されました。今回は、特に、泉区の照井海子先生の分娩体験を中心に聴かせて頂き、助産師として最も大切な基本姿勢を改めて学ばせて頂きました。

助産師はお産をまん中に、その前後の母子関係に関わる、大変大切な役に立つ仕事が出来ると、ありがたく、希望も勇気も湧いてきました。

お昼の会食も楽しく、充実した時間でした。これからも、このような会を開き、助産師間の交流を深め、コミュニケーションを取り、ネットワーク作りを進めたいねと話して、閉会となりました。

### 参加者の声

長年ご活躍されてきた先輩の方々のさまざまな体験談を聞くことが出来、有意義でした。

私は開業届けを出して8年になりますが、その間子育てが中心で、ほとんど仕事をしてきていませんので、今後へ向けて不安も感じていました。今回のお話を聞いて「私もガンバロー」という気持ちを新たにしました。

70代、80代でお元気にされているお姿は、私の人生の目標になりました。

泉区 今野馨子

## 6. 編集後記

この情報誌が役に立っていることを願いつつ、とは言うものの素人作業で、ボランティアでやっております。理由付けをして、誤字、脱字はどうぞご容赦下さい。

予算が少ないので、白黒印刷にしようと思いましたが、役員会で、視覚に訴えるには、カラーがよいとのことで、このスタイルを続行します。

投稿はいつでも、どなたでも歓迎致します。特に病院勤務の方の投稿が少ないので、頂ければうれしいです。よろしく願いいたします。



発行 社団法人日本助産師会宮城県支部

〒985-0822 宮城県七ヶ浜町汐見台南1丁目1-5

支部長 新田 双葉

Tel&Fax 022-357-6562

支部便り担当 田村 雪子

機関紙に関する問い合わせや投稿は、090-2982-7235

田村 雪子まで、お願いします。

作：雲走 範子氏（くもそう のりこ）パンの花  
範子氏は、元保育士さん。網膜色素変性症で現在の視力は0.01。全盲になる日が近いことを願って、花を作り続けています。

# 社団法人 日本助産師会 宮城県支部だより 第14号

平成18年10月 吉日

## 目次

1. ご挨拶 北海道・東北ブロック大会に参加して  
新田双葉支部長
2. 宮城県委託助産師研修会を終えて  
アンケート集計結果
3. お知らせ
4. 産婆時代の助産師たち Part 3  
高橋 あや子氏
5. 特別寄稿  
北海道・東北ブロック研修会に参加して  
伊藤 範子氏  
今後の開業助産師と嘱託医・連携医療機関について  
伊藤 朋子氏  
第1回保健指導部会報告 「情報交換会」  
佐藤 ミツ子
6. 編集後記



## 1. ご挨拶 新田双葉支部長

暑かった東北の夏祭りも終わり、日毎に秋の深まりが感じられる今日この頃ですが、会員の皆様には、お変わりなくご活躍のことと思います。

先日の暴風雨による被害も大きく、県・国の援助も考慮されているようですね。刈り入れ前の稲穂が垂れ下がっているのを見るにつけ、農作物が無事に育つのも大変な事となんだと改めて見る思いです。

さて、私たち助産師にとっても、お産を扱う医師と病院、診療所などの医療施設の減少は最大の関心事です。数年前から、「出産難民」の存在が、テレビ、新聞、ラジオ等で報道されております。私どもも、どうしたらこの危機的状況を打開出来るかと、関係機関に度々相談に出かけておりますが、今現在、打開の道は確立されていません。少子化対策と共に、早急に検討して頂きたい次第です。

今回、9月22・23日は、北海道・東北ブロック大会に、伊藤範子氏といっしょに参加してきました。

旭川医科大学付属病院院長の石川先生は、「医師と助産師が役割を分担して、日本のお産を守って行こう」と呼びかけて下さっていました。

今、助産師の力をアピールする絶好の機会と言う捉え方、認識に盛り上がりました。そのために、それぞれがしっかりと学習して、力をつけて、現場に立ち向かってほしいものです。

会員相互の協力を益々期待して、ご挨拶と致します。

## 2. 宮城県委託助産師研修会を終えて

平成18年度宮城県委託第1回助産師研修会は、7月9日エルソーラ仙台大研修室にて開催された。

### [地に根をはらせた情報をとろうよ] 子育ての極意

- 1) 「宮城県初の院内助産院を担当して」  
公立刈田病院 担当助産師 渡辺輝子先生

#### マタニティーホームでのお産

- ・たたみの上での分娩が主体となります。
- ・生むときのスタイルはフリーです。
- ・点滴や注射は使いません。
- ・生んだ後は赤ちゃんを抱っこします。



#### <妊娠中にパースプランを記入して 自分らしいお産について考えます>

院内助産院として全国的に注目されている、公立刈田病院院内助産院に関わっていらっしゃる渡辺輝子先生の講演は、設立時の院長先生の後押しが絶大であったことにはじまり、他のスタッフとの協力体制のとり方など、実際の現場での苦労話を取り込みながら、お話頂いた。病院の中で、医師との連携がよくとれ、助産師が自律した助産活動をされ、それを病院全体として支援し、地域に密着した活動をさせていらっしゃるという感想をもった。今後とも頑張ってください。

- 2) 「母乳育児推進のために - BFH認定病院として -」  
東北公済病院師長 豊島紀代子先生

宮城県にすむ助産師で、東北公済病院の母乳育児に関する取り組みを知らない者はいないだろう。BFH認定は、楽に通過しただろうという潜在観念は、豊島紀代子先生の講話3分で打ちけられた。

産科病棟全体の意思統一と、常に調査研究し、その結論を出し、次に進まれる姿勢、進むときに理解者を増やしていかれた姿勢に感銘を受けた。

- 3) 「泣かない赤ちゃん・言葉の遅れ・多動  
学級崩壊・いじめ・キレル・不登校/  
社会事件の背景にあるもの」  
仙台医療センター小児科医長 田沢勇作先生

「思春期は、バーチャルな世界から、現実の世界を見つめる時期です。」とは、田沢勇作先生のご講演を初めてお聴きしたときのことであり、以後田沢勇作先生のファンとなり、今回の講演会を楽しみにしていた。テレビは、2歳まで見せない、ママの声をいっぱい聞かせること、テレビゲームは1日15分までなど、すぐ役立つことを、脳科学の世界を紐解いて、子育てにすぐ役立つ講演をして頂いた。

19年前にこのご講演をお聴きしていたら、我が家の子達も何とかなったかと思うことしきり

## 開業助産師と嘱託医・連携医療機関

伊藤 朋子 氏

### 安全対策委員会経過 報告

平成18年10月21日

第2回安全対策委員会 開催

開催日時 平成18年7月20日 14時~16時 会場 とも子助産院

参加者 新田支部長 高津開業部長 須江 中村 小野 渡邊佐登美 伊藤  
傍聴：藤田杏奴（河北新報記者）

協議事項

- 1、小児周産期医療協議会 要望書（案）検討
- 2、開業助産師実態調査 結果報告
- 3、病院搬送経過報告 伊藤・須江

会議終了後、佐藤喜根子先生から、電話あり。7月3日の本部での、特別委員会の状況をうかがった。「特別委員会の活動方針としては、

- 1、助産師は充足されているとなっているが、実態にそぐわないのではないか、独自に再調査する。
- 2、産科医師不足対策として、助産師の活躍を期待されているが、自信のなさから自立できていない現実がある。それを研修や本部からの支援スタッフ派遣などで、助産師の自立を支援していくプログラムづくりをする。  
佐藤喜根子先生の役割は、主に第2点目の助産師自立支援に重点を置く予定とのこと。

その他の関連活動

8月10日 全国助産師教育協議会にて、シンポジウム参加 院内助産院について。

8月20日 開業助産師部会 要望書（案）内容検討。

8月26日 助産師会宮城県支部 役員会。 要望書（案）について役員了承得る。

8月28日 仙台市少子化子育て特別委員会へ有識者意見応召。（伊藤・武者）

同日 仙台市立病院 渡邊産科部長と面談・連携医療機関指定について経過報告

本部では、分娩を扱わない保健指導のみの開業助産師について、嘱託医に加え連携医療機関は不要となるよう、厚生労働省へ働きかけているとのこと。10月19日に本部開業部会役員会開催あり。国会は通過したが、法律の詳しい文言・解釈についての詳細は確定しておらず、省内にて作業中。厚生労働省は、まだ出ていない状況（10月4日連絡時点）。

今後の予定。

11月19日（土） 開業助産部定例会、 要望書修正・意見集約。助産師マップ改定作業。

会場 青年文化センター 会議室 14時~17時

宮城県小児周産期医療協議会・仙台市医師会・宮城県医師会・宮城県・仙台市へ申し入れ。

（日程は検討中）

ご意見、または安全対策委員会参加のご希望がありましたら、支部長または、安全対策委員長、伊藤（022-772-5960）へご連絡ください。

開業部定例会への参加希望は、開業部会長 高津真理子（090-9530-5801）へ。





### 5. 特別寄稿

#### 北海道・東北ブロック研修会に参加して

伊藤 範子 -

9月22・23日の二日間、KKRホテル札幌にて新田支部長と初めて日本助産師会研修に参加してきました。

1日目は、岡本日本助産師会専務理事から助産師の将来について、伊東日本母子ケア研究会会長で小山自然育児相談所からは「乳房トラブルとその対処法」について講演がありました。

2日目は、周産期医療連携について、助産師・医師・助産師教育現場・医療安全の視点それぞれの立場の方からの講演で多くを学ぶことができました。

石川旭川医科大学病院院長の講演で、周産期医療環境の危機的状況、「お産難民」と言った言葉の背景、産科医不足の現状と背景をお聞きしながら、もうすでに院内助産所の開設が徐々に開始されてはいますが、今自然分娩を助産師が主導権を持ち、医師とのチーム医療の確立の時期ではないかと考えました。

園生天使大学助産研究科教授から日本第一号の助産師大学院の大学教育の方法や受験状況、現在の在校生の状況の説明をお聞きし、遠い昔の私の母校の変容振りを改めて実感しつつ近藤潤子会長の助産師の専門性の確立への意気込み、助産師育成への姿勢へのエネルギーを感じました。

最後に石井岩手県立大学看護部教授から医療過誤の事故分析の大切さと「ハット」「ヒヤリ」とした事を振り返ることの大切さ、なぜそれらが発生したかを分析しその原因を改善し、環境整備が必要であることを再確認させられました。

また、医療現場で医療訴訟が多い産科の現状と訴訟争いとなる要因、医療者の態度・言動の対応とともに、助産施設、医師のカルテ記録、緊急時の必要物品、感染予防対策などの不備をあげておられました。今までは産科医師の責任として民事・刑事訴訟問題となっていました。最近では助産師の責任として訴訟問題として裁判化となってきていると述べられていました。

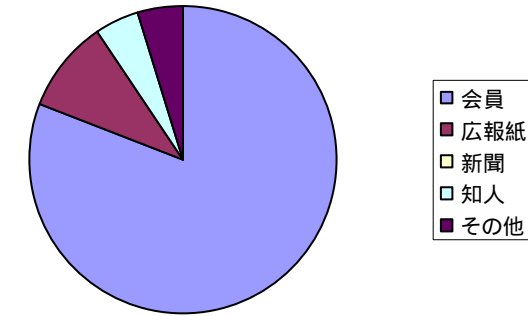
最近再三、産科・小児科医不足と妊婦・産婦、患児の夜間救急病院探しやたらいまわしによる死亡事件が報道され問題視されています。医療者の就業環境の根本が解決されず、表面的なところが問題視されているように思います。

医療者の育成と質の向上のための卒後教育の充実、医療安全、感染防止の確率と共に国民への医療環境の情報を公開し上手な医療の活用をPRしつつ、より良い環境づくりを共に考えていく必要があると思いました。



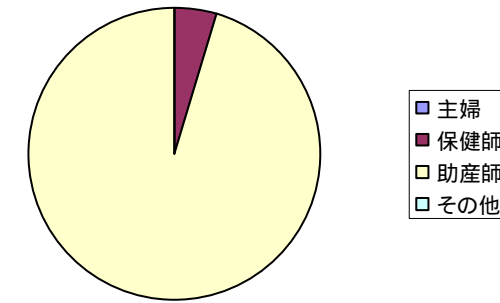
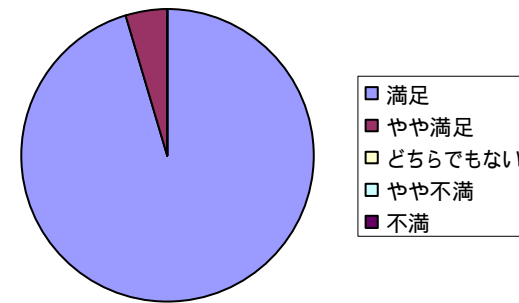
アンケート回収 42 枚 参加者数 63 名 回収率 66.7%

#### 1、あなたはこの研修会をどこで知りましたか



#### 2、参加者の職種

#### 3、研修の満足度



#### 4、3の理由

- \* 興味のあるお話だった。とても良い内容だった。
  - \* 全体的に大変良いテーマで参考になった。
  - \* 今後に生かせる内容だった。
  - \* 子育て中なので田澤先生の話がとても参考になった。
  - \* 現在の分娩事情について知ることが出来た。厳しい状態ですね。
- メディアの影響、恐ろしさを再確認することができ、今後自分の子育て、保健師として関わる親子に

- \* 活用できると思った。
- \* 少子化対策の中心に助産師がかかわれるように関わる必要性を感じる。院内助産所も母乳育児も助産師全員が関わられるように望みます。
- \* 宮城の各施設の現状や貴重な話を聞くことが出来、大変勉強になりました。
- \* 諸先輩のお産に対する向き合う思いや心意気を感じました。
- \* 実情を語っていただききびしい現状もあると思いますが、がんばってほしい
- \* 無回答 5名

## 5、公開講演について

- \* 慢性疲労や起立性調節障害のことを初めて知った
- \* 子供とメディアの関係について納得。公開にしたことで参加者が増え知ってもらえる機会になった。
- \* プログラムの流れにぴったりのお話でよかった。
- \* 人事ではなく自分の家の問題でもあった。

## 6、今後の研修について

- \* 集合した仲間と交流を行いたい
- \* 参加者が少ない
- \* 若い助産師が研修に期待をするような内容の企画をお願いします
- \* 開業助産師の長年の経験をうかがってみたい
- \* 受動喫煙の話を知りたい
- \* 研修に参加してよかったと思える内容
- \* 開業助産師の後方支援や助産師を取り巻く状況を聞いてみたい
- \* アクティブパースや、フリースタイル分娩に関して日常生活の中にあるものを利用して聞いてみたい

## 7.まとめ

この結果を受け止め、今後の研修企画に活かして参りたい。  
会員の方々からの、希望をもっとお聞かせ下さい

宮城県委託助産師研修会は、宮城県の主催で、(社)日本助産師会宮城県支部が委託を受けて開催するものです。目的は、開業助産師・勤務助産師の研修をし、宮城県の母子保健を向上させるためのものです。

目的に沿った、時代に即した内容で役員会を中心に検討しています。

皆様のお声をもっと聞かせて下さい。



あの時代を体験したからこそ、二度と戦争はしてほしくないと思います。二度と戦争をしてはいけません。

平成 17 年 3 月より、地域の皆さんからいろいろな相談が入り、育児相談や受胎調節相談などに携わっております。

まだ 83 才です。『命の大切さ』を訴えながら、命が続く限り、皆様のお役に立ち続けて参りたいと思っております。

## 気の毒なお産

出産に関わった 66 年間で振り返ってみました。

昭和 17 年、私が産婆学校に通学していた当時のことです。お父さんになる方は、明日にでも招集令状がくるかも知れない方で、赤ちゃんベッドや育児用品を、急いで買いそろえ、準備万端でお産になる日を待っていました。

そして、待ちに待ったお産がやっと始まりました。初産婦さんのわりに、早い進行で無事生まれました。ところが、生まれた赤ちゃんは、無脳児です。兔唇もありました。泣き声はアマガエルのごとくです。赤ちゃんを、すぐ家族に見せる訳にもいかず、別室に連れて行き、お産が終わるのを待ちました。

ご主人は、赤ちゃんを見せてもらえないので、ミスがあって見せないのでは思ったようで、「訴える!」と言って騒ぎ出しました。事情をお話し、その後面会してもらいました。

あんなに楽しみにしていたご主人は、うなだれて、「先生を疑って申し訳ございません。もう子どもは要りません」と言うのです。その後このご夫婦はどうなったことかと案じています。

その後、半年ほど経ったころのお産も忘れられません。臍輪が大きく、表皮が透ける状態でした。元気な心臓だけが飛び出していました。時間の問題でした。

この他にもいろいろな体験をしました。

五体満足で、元気に生まれることが何よりです。お母さんだけでなく、赤ちゃんも頑張って生まれてきたのです。

いろいろな体験があったからこそ、「おめでとうございませう」という言葉に力が入りました。

話は変わります。当時の産婆会館では、どうしても子どもを育てることが出来ない親御さんの赤ちゃんを預かっていました。料金前納で 3 カ月分です。会館に行きますと、赤ちゃんベッドに両親の名前、赤ちゃんの名前、生年月日を書いてあり、男女別に乳児室に並んでいました。私も、保護者のいない赤ちゃんを連れて行ったことがあります。

戦争前後の大変な時期で、不幸な赤ちゃんも多かったですね。

平成 18 年 6 月 15 日





早朝、3時、第一、第二救護班の出動命令が、スピーカーで看護室に入りました。すばやく、身支度を整え、整列し番号をかけていると、敵機にみづかり、急降下して私たちに向かって、バツバツバツ!!! こんなとき、日ごろの訓練が役に立ちます。皆無事でした。

明るくなって、敵機が去ったので、再び整列出勤となり、仙台に向かいました。仙台に入ると、エックス橋の下が火災で通れないとのことで、市内を通りました。一面が焼け野原です。見えるのは、大きな金庫だけでした。広瀬川のほとりの道に入りましたら、昨夜空襲を受け、非難された人々が、その下の道に列になって歩いています。やっと現場に着いたのです。

「痛いよ！ 痛いよ 早く！ 早く」

すさまじい光景です。骨折、火傷

50才位の女性は、全身火傷で、むしろに包まれていました。

「痛いから、手をつけないで！」

と言うのですが、出来る限りの命を守るのが医師と私たちの仕事です。

「痛いよ 痛いよ やめてー」

忘れられません。医師の指示で、次から次と手当てをしました。軍隊も食料不足で、夕方やっと口にしたのは、豆入りおにぎりでした。この日は、何とも切ない思いで、夜遅くに帰りました。

それから何日かして、今度は多賀城がねらわれました。午前8時過ぎ、敵機は油槽庫に時限爆弾を投下。緊急避難のスピーカーが流れたと思ったら、まもなく、ものすごい火柱と黒煙が何メートルも昇り、爆発炎上するや、病院用死体室に兵隊さん方の死体が次々と運ばれ、あっという間に満杯になりました。

今度は、病室を狙い打ちです。重症患者は、近くの防空壕に、軽症患者は、少し遠い防空壕にと、職員と兵隊さん方は、病室と患者さんのところを、走り廻りました。

ちょうどこの時、私と見習い看護婦が敵機に見つかり、敵機が急降下してきて、病室のまどから、バツバツバツ!! バツバツバツ!! 敵機は、何回も回転しながら打つのです。やっとベッドの下に潜り込み、今去るか、今去るか不安な時間を過ごしました。やっと、去るのを待って、軽症患者の防空壕までたどり着きました。

そんな不安な日を送っていましたが、昭和20年8月15日、終戦の放送がスピーカーから流れました。1週間ほどして、病院は閉院になり、私は、実家に帰りました。

そして、親の勧めで、その年の10月10日結婚することになりました。戦後なので、嫁入り道具なんて何もなく、兄嫁から箆笥を借りての嫁入りでした。披露宴には、小堀で採ったドジョウ、魚、卵焼き、漬物、青菜のおひたし、あとは何もありません。戦後60年に経った現在の結婚式とは、天と地との違いですね。

戦争当時から、戦後もですが、田舎でも食糧難でした。郵便貯金も銀行貯金も皆封鎖制になり、使えるのは、1カ月1人十円か二十円だったと思います。本当に厳しい生活でした。

そんな折、念願だった産婆の開業届けを、結婚した年の10月に出しました。それから、親子の命を預かる責任者として、15年頑張りました。



ご存知のように、分娩は、昭和30年頃からは、自宅分娩から施設分娩へと移りました。鹿島台の開業産婆は、3人が交代で、町内国保病院に手伝いに行くことになるのです。

その後、町内に開業する高瀬産婦人科から、たつての依頼を受け、手伝うことになりました。18年6カ月勤務しましたが、院長が体調をくずされ、分娩はやめ、外来だけとなり、さみしい思いをしていました。

まもなく、松山町に開業なさる渡辺産婦人科の先生から、「ぜひ、手伝ってくれ」との依頼を受け、昭和60年元旦から、20年、思い残すことなく、産婆そして助産婦、助産師として、助産業務を遂行できました。

これも、職場の皆様、そして家族、主人の協力があってのことと感謝しております。

振り返ってみますと、あの島も、この島も玉砕となり、東京も、仙台も、多賀城も無残な姿でした。あれから60年、戦後の日本は、物資が1年、2年と豊富になりました。配給制も、お金の封鎖もありません。

### 3. お知らせ

#### 第2回宮城県委託助産師研修会のご案内

11月26日(日)

場所 ホテル ユニバース  
同封のご案内をご覧ください

#### 新会員さんをお誘い下さい

情報を伝えます。時代に即応した研修会を企画しています。思春期教育に貢献しています。開業助産師も頑張っています。どうぞお誘い下さい。ご連絡は、支部長・書記長・各役員へ。

#### 平成19年度会費の納入について

- 銀行振替手続きをなさっていない方は、書記長にご連絡下さい。用紙をお届けします。
- 2月23日前後が引き落とし日となります。残高の確認をよろしくお願ひします。

#### 各専門部からの連絡

開業した・開業したい・開業部の会議に参加したいなどのご要望は、開業部長 高津真理子までご連絡下さい。

電話番号 090-9530-5801

保健指導部では、情報交換・交流をメインに、会合を開催しています。保健指導部長 佐藤ミツ子までご連絡下さい。

電話番号 090-5598-4464

ご住所・お名前・勤務先の変更は、宮城県支部書記長 田村雪子まで、ご連絡下さい。

983-0045  
仙台市宮城野区宮城野3-5 5-505  
FAX 022-257-7610  
電話 090-2982-7235

## 4. 産婆時代の助産師たち Part 3

『66年で、7400人とりあげました』

鹿島台 高橋あや子

### 戦火をくぐりぬけて

高橋氏は、大正12年、遠田郡南郷町でお生まれになりました。9人兄弟の9番目です。高橋氏は、小学校と高等科2年を卒業後の昭和14年3月に、産婆さんになることを希望し、お兄さんがいらっしゃる、南洋郡島パラオ諸島にお姉さんと2人で、横浜港を出発しました。

以下、高橋氏の記録から、当時の様子をお便り頂き、これからの社会・戦争のない社会作りへの認識を益々持って頂ければ、高橋氏の願うところであると思います。

文責 田村雪子



横浜港を出発し、2週間程でやっとパラオ諸島、そして、船を乗り換えて1時間ほどで、兄がいるペリリュウ島に着きました。

兄が入社している『南洋興発株式会社』に入社しました。会社には女性がいませんでした。総務部の配属になり、見たこともない欧文タイプライターで会社の書類を整理し、電話の取次ぎもしました。どんな仕事も、一生懸命やって、仕事に慣れることが大事と思い頑張りました。

その内、会社の医務室から出産の様子をお聞きすることがありました。今は近代化されていることですが、昭和初期のことです。当時、島民の女性がお産するときは、陣痛が来ると、ひとりで海に行き、お産までに、ヤシの葉を取って、カゴを作りながら出産を待つそうです。赤ちゃんが生まれたら、胎盤は海に流し、ヤシの葉で作ったカゴに、赤ちゃんを入れて、帰ってきたそうです。

その後、私は、産婆になりたい自分の気持ちを、松本課長さんにご相談とお願いをして、テニアン島南洋興発株式会社病院に、転勤させて頂きました。

テニアン島は、白砂糖と綿を栽培している島でした。また島で、飛行場を作っているの、ダイナマイトの爆発で、外科の患者さんが多いと婦長さんが話していました。

婦人科の往診のときは、いつも院長と産婆さんと私とで行きました。

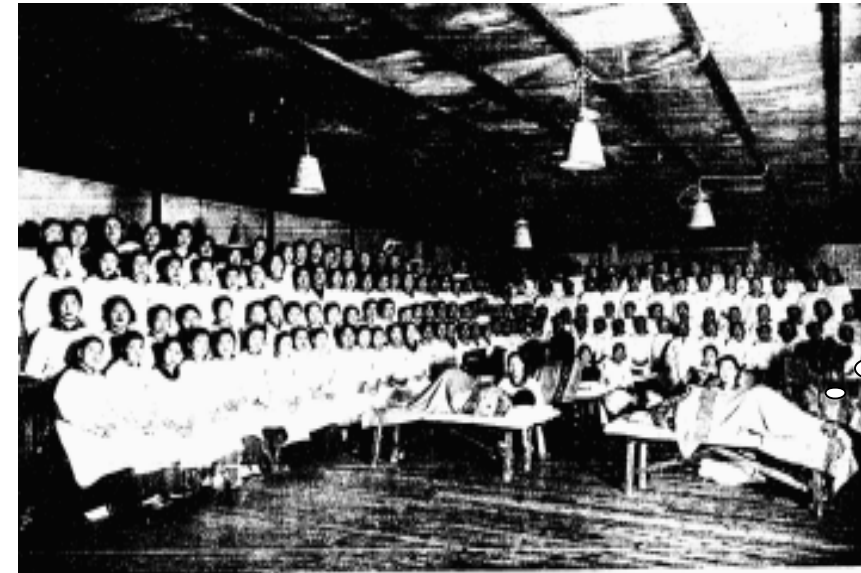
ある日のことです。赤ちゃんは4kg近かったのですが、元気に生まれたそうです。しかし、お母さんが弛緩出血で困り果てていました。急遽往診に行き、何とか、母子とも無事に、治療が終了し、ほっとしたものです。

この島では、さまざまな場面に遭遇しました。私が初めて立ち会ったお産は、『子癇』です。

その後、島が戦場になるとのことで、院長に、「内地に帰り、『産婆』の資格を取って、またテニアン島に来て下さい」と勧められ、帰国しました。

お世話になった松本課長さんのお世話で、東京都渋谷区代々木本町花井産院に入所しました。

昭和17年3月から、東京都神田三崎町産婆女学院に通学しました。そして、看護婦、産婆の試験に合格し、念願だった産婆の見習いに励むことを決意したものです。



東京助産女学校  
第62期午前部生  
実習

しかし、昭和18年頃から、本土空襲の恐れが出てきました。

- 、学童疎開が始まった。子どもたちは、両親の実家または、知人方に疎開または、集団疎開となる。
- 、空襲警報発令
- 、投下官制発令(夜になると電気を消す)
- 、警戒警報発令

訓練の時は、落ち着いていましたが、いざ現実になったら、大変です。

- ア、落ち着いて行動する
- イ、慌てない

と、わかっていても、敵機の爆音がピンポイントひびくと、規範通りいきません。上空からB-29型爆撃機が火だるまになって、グラン、グラン、グランと落下してくるのです。不用になったドラム缶は、ところかまわず、ボカボカ投下されてきます。

救護は無我夢中でした。妊婦は、ショックで予定日より早く陣痛が来ることが往々にしてありました。そして、お産の最中に、敵機が爆音を鳴らして、屋根すれすれに往復します。その内、神田が爆弾投下され、焼け野原になったと放送が入りました。お産は無事に終わったものの、母子を守らなければなりません。母親をベッドの下に寝かせ、布団や毛布をかけ、破片が通らないように防備しました。赤ちゃんはベッドごと、押入れに入れました。職員は交代で、母体の出血や赤ちゃんの様子をみます。

夜は、近くの防空壕を往復して、敵機が帰る朝を不安なままに待つ日が続きました。

食料不足もひどく、先生と2人で、着物を持って(物々交換)、千葉の農家まで行き、米、イモ、青菜を調達したものです。私は、2度ほど行きました。

その内、被害が、勤務していた助産院の近くである、明治神宮間近まで及んでいるとのことで、入院なさっている方に急遽退院して頂きました。助産院の院長は、結婚前の娘さんたちをここで死なせては申し訳ないとのご判断で、私たちは、それぞれの実家に帰ることになりました。

実家に帰るときの列車も、込み合って荷物制限があり、ひとりリュックサック1個だけで、ギューギューづめの状態で、やっと辿り着きました。

実家に帰ったものの、気持ちが落ち着かず、2、3日後、宮城県多賀城陸軍病院に願書を出し、早速採用になり、看護寮に入り勤務に精進しました。耳鼻科勤務でした。

一生懸命頑張っている内に、昭和20年8月上旬、仙台空襲です。仙台の空一面が真っ赤です。